

# 平成 30 年度

## 一般入学試験Ⅱ期

# 必須科目

試験時間 9：30～11：30（120分）

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 16 ページ |
| 2. 英語 | 6 ページ  |

### 注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ③試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ④試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

健康科学大学  
看護学部看護学科

# 1. 国語

※国語の問題は、全16ページです。

# 国語

1

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に〔1〕～〔12〕の番号を付してある。

- 〔1〕 一般には「言語をもつ」ことが、人間らしさを特徴づける能力の代表として理解されているようだ。アメリカの言語学者チヨムスキー（注1）は、言語はヒトだけがもつ本能であると主張し、「言語能力」とよんでいる。また、同じアメリカのペンカー（注2）という研究者は、「言語能力」はヒトだけが進化の過程で獲得してきた産物であると主張し、「言語本能」と名づけている。ヒト独自の高い知性の成立に言語が大きく（ア）カンヨしてきたことは、ゆるぎない事実だろう。
- 〔2〕 Aでは生物としてのヒトの独自性、つまり人間らしさは、言語の存在だけで説明しきれものなのだろうか。たとえば、異国の地でコミュニケーションをする場面を想像していただきたい。その地の言語を理解できないあなたは、身ぶりや相手の行為をまねるなどして、なんとか互いの意図を通じ合わせようと努力するだろう。また、ことばを獲得していない赤ちゃんにたいて、母親は大げさな表情や（イ）クチヨウをしてみせる。赤ちゃんが喜んで反応すると、今度は母親の側が赤ちゃんの行為をまね、コミュニケーションは持続していく。
- 〔3〕 こうしたコミュニケーションは、ヒトとヒトのあいだだけで見られるわけではない。「わが家のイヌはとても賢くて、私のいうことをちゃんときくし、私のほうも彼が何をしたいのかがわかる」、と思っている読者も多いだろう。イヌは言語を使うことができない。しかし、少なくともヒトの側は、イヌと自分とのコミュニケーションがうまく成立できた、と感じているのである。
- 〔4〕 具体的なコミュニケーション場面をいくつか見てきたが、ここで強調したい点は、人間は言語を介さなくても他者の心に接近し、心の状態を読もうとする性質をもちあわせているということだ。おそらくわれわれは、他者には自分と同様に心をもっていることを想定し、無意識のうち他者の心を読み、他者の行動に意味づけようとしている。こうしたコミュニケーション能力も、言語に匹敵するくらいヒトを特徴づける性質であるといつてよいだろう。
- 〔5〕 なぜヒトは、他者の行動の背後に潜む心の状態に敏感に反応して、コミュニケーションするようになったのだろうか。この問いにたいするひとつの仮説は、ヒトが複雑な社会集団のなかで生存していくために「誰が、誰とともに、誰にたいして、何をおこなっていたか」という複雑な情報をすばやく処理するために進化してきた、というものである。Bこうした必要性に迫られてヒトが高度な知性を獲得してきたという考え方は、「社会的知性」仮説とよばれている。
- 〔6〕 もう少し具体的に説明しよう。集団の規模は、社会的な複雑さを示す指標だといわれる。なぜなら、大きな集団を維持しながら自分の身を安全に守って生活するためには、絶えず自分を取り巻く多くの他者が自分の敵か味方かを見きわめること、さらには、他者と他者との関係が、自分にとってどのように影響するかに注意を払わなければならないからである。つまり集団の規模が大きくなればなるほど、他者についての情報量は（ウ）ボウダイなものになる。そのた

め他者の行為に含まれる意図や目的といった心の状態をなるべくすばやく読んで、他者との関係を維持していかなばならなくなる。

- [7] イギリスの人類学者ダンバー（注3）は、「社会的知性」についての仮説を支持する証拠となるデータを示している。ダンバーは、**C**さまざまな霊長類（注4）が構成している群れのサイズと、「思考や推論」をする高次な機能をつかさどる大脳新皮質とよばれる脳の部位の割合とのあいだに、**相関関係が見られることを発見した**。この関係からヒトの社会集団の大きさを推測したところ、もともと大脳新皮質の割合が大きい（脳の全体積の八〇%を占める）ヒトでは、一五〇人程度という結果が出た（ダンバーによるとこの数は、少なくとも互いに顔見知りである程度の関係を満たす集団の数と一致するものであるという。たまたまそばにいても知り合いではない場合は、集団の数には含めない）。ちなみに野生チンパンジーの社会集団の規模は、平均して約五〇人程度である。
- [8] こうして見てくると、ヒトは現在生きている生物のなかでも、たえず他者の行為に目をくばり、その行為の裏を正確に読み取る必要があるようだ。こうした生存のための必要性に迫られることで、ヒトは進化の過程でいつしか無意識的に他者の心の状態を読み取るようになってきたと考えられる。
- [9] しかし当然ながら、ヒトは生まれてすぐに他者の心を読み取ることができるわけではない。ここで考えなければならないことは、ヒトが他者の心を読み、コミュニケーションを（エ）エンカツにおこなう能力は、いつたいどのように芽生えてくるのか、という発達の観点からの問題である。
- [10] まず結論からいいたい。私は、**D**他者の心を読む能力の発達を支える基盤は、**身体を使った模倣にあると考えている**。模倣することで他者と同じ経験をしてみる。その結果、自分の心を他者の心と重ねあわせることができるようになり、他者が何を考えているのかを読み取ることに繋がると考えられるからである。もし他者の模倣ができなかったとしたら、他者とまったく同じ経験を得ることはできない。そうすると、自分の心を他者の心と重ねあわせて読むことが難しくなるので、両者のコミュニケーションはうまくいかなくなるはずだ。
- [11] ではヒトやチンパンジーは、生後いつ頃からどのような模倣をするようになるのか。チンパンジーの模倣とヒトの模倣には、どのような違いが見られるのか。そこで見られた違いは、人間らしさの内容と（オ）**キゲン**とどのような関係をもつのだろうか。本書は、こうした問題に取り組んできた私自身の研究を紹介しながら、人間性のルーツを探ろうと試みたものである。
- [12] 「サルまね」ということばがある。そのことばのもつ一般的なニュアンスは、模倣は独創性にかけた単純な行為である、というものであろう。しかし実際は違う。情報を処理するという観点からすると、身体を使って模倣することはとても難しい。なぜなら、模倣するためには他者の行為から得た視覚情報を瞬時に処理し、さらにはその情報にもとづいて、自分自身の運動として計画したり実行する必要があるからだ。

（明和政子「霊長類から人類を読み解く―なぜ「まね」をするのか」より抜粋）

注

- (注1) チョムスキー——ノーム・チョムスキー(一九二八〜)。アメリカの言語学者。
- (注2) ピンカー——スティーブン・ピンカー(一九五四〜)。アメリカの心理学者。
- (注3) ダンバー——ロビン・ダンバー(一九四七〜)。イギリスの人類学者。
- (注4) 霊長類——霊長目の哺乳類の総称。原猿類(キツネザルなど)、新世界ザル(リスザルなど)、旧世界ザル(ニホンザルなど)、類人猿(チンパンジーなど)、ヒトを含む。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

(ア) カンヨ

- ① 執行ユウヨがつく
- ② ヤミヨに針の穴を通すような
- ③ 時間にヨユウがない
- ④ 銀行でヨキンを引き出す
- ⑤ 奨学金のタイヨを受ける

(イ) クチヨウ

- ① 私の父はダイクである
- ② イク同音
- ③ 害虫をクジヨする
- ④ 衝撃の展開にセツクする
- ⑤ 先祖をクヨウする

(ウ) ボウダイ

- ① ビタミンがケツボウする
- ② ボウズ頭にする
- ③ 作業をボウガイする
- ④ 腹部にボウマン感が生じる
- ⑤ カンボウ長官が会見を行う

(エ) エンカツ

- ① ブンカツ払い
- ② 上司にドウカツされる
- ③ 歯車にジュンカツ油をさす
- ④ 資料をカツヨウする
- ⑤ 才能がコカツする

(オ) キゲン

- ① イベントをキカクする
- ② キジヨウの空論
- ③ 重要な文書をキアンする
- ④ 事業がキドウに乗る
- ⑤ 氏名をキサイする

問2 傍線部A「では生物としてのヒトの独自性、つまり人間らしさは、言語の存在だけで説明しきれものなのだろうか」とあるが、この問いに対する著者の答えとその理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「人間らしさ」は言語の存在だけで説明することができる。なぜなら、イヌは言語を使用することができず、ヒトだけが言語を使用することができる生物であるからだ。
- ② 「人間らしさ」は言語の存在だけで説明することができる。なぜなら、外国人や赤ちゃんとコミュニケーションをとる際、言語が非常に重要な役割を果たしているからだ。
- ③ 「人間らしさ」は言語の存在だけで説明することはできない。なぜなら、ことばが通じない相手に対して、ヒトはその相手の心の状態を読もうとする独自の性質を持っているからだ。
- ④ 「人間らしさ」は言語の存在だけで説明することはできない。なぜなら、赤ちゃんやイヌは言語を使用することはできないが、両親や飼い主の心の状態を正確に読み取ることができるからだ。
- ⑤ 「人間らしさ」は言語の存在だけで説明することはできない。なぜなら、ヒトは言葉が通じない相手とでも、お互いの目を見れば心を通い合わせることができるという、独自の性質を持っているからだ。

問3 傍線部B「こうした必要性に迫られてヒトが高度な知性を獲得してきた」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 複雑な社会集団の中で生存していくためには、なるべく大きな集団に所属し、自分の心の状態を他の個体に伝えることが必要である。このような必要性がヒトの高度な知性の獲得につながっている。
- ② 複雑な社会集団の中で生存していくためには、その集団の個体同士がどのような優劣関係や友好関係にあるかという情報をすばやく処理することが必要である。このような必要性がヒトの高度な知性の獲得につながっている。
- ③ 自分の身を守るためには、所属する集団の個体数を増やすことが重要であり、相手を自分の集団へ所属させるためのコミュニケーション能力が必要である。このような必要性がヒトの高度な知性の獲得につながっている。
- ④ 自分の身を守るためには、所属する集団の中で一番強い個体になることが必要である。このような必要性がヒトの高度な知性の獲得につながっている。
- ⑤ 集団の規模が大きくなるほど、ある個体とその集団に属するか否か覚えておくための大規模な情報処理を行う必要がある。このような必要性がヒトの高度な知性の獲得につながっている。

問4 傍線部C「さまざまな霊長類が構成している群れのサイズと、「思考や推論」をする高次な機能をつかさどる大脳新皮質とよばれる脳の部位の割合とのあいだに、相関関係が見られる」とあるが、それはどういう関係のことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「思考や推論」といった高次な心理機能を持つヒトやチンパンジーは、集団を形成しない傾向がある、という関係のこと。
- ② 「思考や推論」といった高次な心理機能を持つヒトやチンパンジーは、他の霊長類に比べ脳全体における大脳新皮質が占める割合が大きい、という関係のこと。
- ③ 霊長類においては、その動物種が作る集団のサイズが小さいほど、その動物種は「思考や推論」といった高次な心理機能を持つ傾向が高い、という関係のこと。
- ④ 霊長類においては、その動物種が作る集団のサイズが大きいほど、その動物種の脳全体における大脳新皮質が占める割合が大きくなる傾向がある、という関係のこと。
- ⑤ 霊長類においては、その動物種が作る集団のサイズが大きいほど、その動物種の脳全体における大脳新皮質が占める割合が小さくなる傾向がある、という関係のこと。

問5 傍線部D「他者の心を読む能力の発達を支える基盤は、身体を使った模倣にある」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 他者が行った行為と同じ行為をすることで、その行為の背景にある心の状態を重ねあわせることができる。したがって、模倣行動を可能とさせる能力が他者の心を読み取る能力の獲得につながっている。
- ② 他者が行った行為と同じ行為を行えば、その他者は自分に注意を払うようになる。その結果、他者とのコミュニケーションの回数が増加し、他者の心を読み取る能力の獲得が促進される。
- ③ 身体を使った模倣をすることによって、身体能力とともに言語能力も発達する。この言語能力の発達により、他者の心を読み取る能力が獲得されていく。
- ④ 他者が行った行為と同じ行為をするためには、その行為の背景にある他者の心の状態を推論しなければならない。つまり、模倣行動の獲得には、他者の心を読み取る能力が必要である。
- ⑤ 模倣行動ができなければ、他者と同じ経験をすることができない。しかしながら、他者の心を読み取る能力は模倣行動とは関係なく発達していく。



問6 この文章の各段落の表現と構成・展開に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 第1段落では一般的な知識に加えて著名な研究者の主張を紹介し、人間らしさの特徴は言語を用いることである、という考えが存在することを強調している。
- ② 第3段落における「わが家のイヌはとても賢くて、私のいうことをちゃんときくし、私のほうも彼が何をしたいのかがわかる」という文について、著者はそうした考えに完全に賛同していない。
- ③ 第6段落で「もう少し具体的に説明しよう」との表現があるが、その対象は前段落で取り上げた「社会的知性」仮説である。
- ④ 第9段落では、ヒトが持つ「他者の心を読み取る能力」を論じる上での重要な問題として、「発達の観点」を新しく紹介している。
- ⑤ 第12段落では、まず「サルまね」ということばが一般的に「独創性に向けた単純な行為である」という意味で使われていることを紹介している。そして続く文章で、「サルまね」がそのような一般的な意味を持つようになった理由を説明している。

2

次の文章は、斎藤環の『人間にとって健康とは何か』の一節である。これを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

現在、医療の現場において、大きなパラダイムシフトが起こりつつある。

それはいかなる変化か。スローガニックに表現すればA「キユアからケアへ」という変化であり、医療の役割そのものの変容だ。

かつての医療は、ひたすら病気と対決する学問であり、技術だった。個人のなかに病気を見出し、診断を下し、治療を行ない、健康な状態に回復させる。つまり個人に生じた「マイナス」としての病気を除去して、元の状態、すなわち「ゼロ」に戻すこと。それが医学の基本的な役割だった。もちろんその延長線上には「病気を予防する」という予防医学、公衆衛生の考え方もあるが、この発想は基本的には近代以降に普及したもので、かなり歴史が新しい。

現代の医学は、徐々に「病気の除去」や「(ゼロとしての)健康の回復」を考えるばかりでは立ち行かなくなりつつある。医療の対象も、たんなる「患者」から、「健康問題や健康課題をもつ人」へと拡大された。「メタボリック・シンドローム」なる言葉がよい例だが、通常の意味では病気未満であっても、病気に罹患するリスクを高めかねない状態は、予防的見地からは治療の対象となりうるのだ。

(ア) いきおい、医療の現場も病院や施設に限定されなくなる。むしろ治療者が医療機関から飛び出して、積極的にコミュニティへ入り込み、アウトリーチ、すなわち往診や訪問看護といった手法を活用する時代が到来しつつある。

先ほど「予防的見地」と書いたが、予防医学や公衆衛生の比重もいよいよ高まっている。さまざまなバイオマーカー（注1）の発見は、(イ) 潜在的な病気のリスクを発見しやすくしてくれたし、大規模な疫学研究によって、疾病リスクを高める生活習慣や環境因子が明らかになりつつある。ならば、そうした要因を除去することで病気にかかりにくくすることは、医療費の削減という点から見ても理にかなっている。

あるいは貧困や障害といった問題も、健康リスクを悪化させる重大な要因だ。こうしたリスクを抱え込みやすい社会的弱者の問題と向き合うには、福祉の視点も欠かせない。「保健福祉」としばしばセットで語られるのはこのためもある。

ただし、福祉といっても、当事者の依存心を過度に助長するような方針は問題だ。その意味からも現代の医療と福祉は、たんに患者を健康へと教え導くだけでは足りない。患者の自己決定や自律性を尊重しつつ、B自立した一個人としての尊厳を回復することをめざすのである。

こうした変化は医療の境界線を拡大せずにはおかないだろう。具体的には、C従来の生物学主義一辺倒の視点から、「生物—心理—社会」モデルへの移行が要請されることになる。

以下、日本福祉大学教授の山崎臺比古氏による講演資料「健康の観点から生き方と保健医療と社会のあり方を問う」（注2）に基づき、現状を俯瞰（注3）してみよう。山崎氏は先述したSOC（注4）概念を、わが国において精力的に紹介してきた研究者である。

WHO（注5）が定義するように、健康とは「病気ではない状態」ということのみを意味しな

い。たとえば、現在理想と目されている「全人的健康 (holistic health)」の指標には、身体面の健康のほか、精神的な健康や社会的な健康、さらには「スピリチュアルな側面」も含まれていると先に述べた(注6)。

こうした健康観の変化は、いくつかの副次的な変化をもたらしたとされる。まず、D「客観的健康」から「主観的健康」へ、という変化がある。かつて、健康かどうかは、発熱や発赤といった観察可能な症状や、レントゲンや血液検査などの検査データといった客観的指標のもとで判断された。客観的な異常が認められないにもかかわらず、苦痛を訴える患者は「ヒステリー」や「心身症」などの「心の病」にくくられるか、ひどい場合は詐病扱いを受けることもあった。

しかし現代の医療においては、客観的指標のみならず、患者の主観的な健康度が問われなければならない。データがすべて正常値であったとしても、主観的な健康度が低ければ、治療的対応や支援が継続されるべきなのである。

こうした変化は、健康度を測るものさしが、より細やかになったことによるとも考えられる。かつて医療が直面してきたのは、突き詰めれば「死亡か生存か」という大問題だった。この点は基本的にはいまでも変わらないが、現代ではこれに「QOL (クオリティ・オブ・ライフ、生活の質)の向上」という、もう一つの使命が付け加えられている。ただ生きているだけでは不十分であり、より高い生活(生命)の質が問われるということ。この「質」の評価こそ、主観的な健康度が反映されるのである。

もちろんこうしたE主観重視の姿勢にも副作用はある。実際に病気ではない問題までも病気として扱うことを「医療化」と呼ぶが、主観に照準しすぎることで過剰な医療化を呼び込んでしまう恐れがないとはいえない。

しかし本来、医療化の(ウ)弊害とは、本人が苦しんでいないことにまで病気というレッテルを貼って治療対象にしてしまうことだったはずだ。むしろ問題は、本人が苦しんでいるにもかかわらず、その体験が名付けられないために、援助希求行動、すなわち誰かに助けを求めることが難しくなってしまうことのほうではなかったか。

以上からも読み取れるように、新しい健康概念は、生物学的な要因のみならず、社会、心理、文化的要因への視点を要請するものである。

従来の医学が「疾病生成論 (pathogenesis)」、すなわち病気のリスク・ファクター(危険因子)に焦点を当て、その軽減と除去をめざすためのものであったとするなら、現代医学の使命は、たんに病気の治療をめざすことばかりではない。健康を高め強化する要因に着眼し、その支援・強化をめざすことにある。その意味で現代医学は、「健康生成論 (salutogenesis)」の時代を迎えつつあると考えられるのだ。

## 注

(注1) バイオマーカー —— 正常なプロセスや病的プロセス、あるいは治療に対する薬理的な反応の指標として客観的に測定・評価される項目のこと。

(注2) [http://ocw.u-tokyo.ac.jp/lecture\\_files/gf\\_19/12/notes/ja/12\\_yamazaki.pdf](http://ocw.u-tokyo.ac.jp/lecture_files/gf_19/12/notes/ja/12_yamazaki.pdf)

(注3) 俯瞰<sup>ふかん</sup> —— 高い所から全体を見渡してみること。

(注4) S O C —— 「首尾一貫感覚 (Sense Of Coherence)」と訳され、健康を保持増進させる一つの要因として生まれた新しい概念の一つ。医療社会学者のアントノフスキー (Antonovsky) が名付け、山崎喜比古氏らによってS O Cに関する質問紙が日本語に翻訳されて以降、日本でS O Cに関する研究が増えてきた。

(注5) W H O —— 世界保健機関 (World Health Organization) は、「全ての人が可能な最高の健康水準に到達すること」を目的として設立された国連の専門機関。一九四八年四月七日の設立以来、全世界の人々の健康を守るため、広範な活動を行っている。

(注6) W H O の定義によれば、健康とは「病気ではない状態」ということを意味しない。「健康とは身体的・精神的・霊的・社会的に完全に良好な動的状態であり、たんに病気あるいは虚弱でないことではない」とされる。

問 1 傍線部 (ア) ～ (ウ) の表現の本文中の意味内容として最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ～ 。

(ア) いきおい

- ① これまでの考え方では予想できないような状態であること
- ② 時代の流れによって勢力が強い考え方に傾くこと
- ③ 成り行きからいってそう考えられることは当然であること
- ④ さまざまな観点から考えてみてもそうであること
- ⑤ 歴史的経緯から考えてまったく新しい観点であること

(イ) 潜在的な

- ① 当然内部にあるだろうと想像できること
- ② 外から見えない形で内部に存在すること
- ③ 形に表れて存在すること
- ④ 内部で十分に機能を果たしていること
- ⑤ 見つからないように隠れていること

(ウ) 弊害

- ① 物事を続けても効果が期待できないこと
- ② 本来の目的とは違い思わぬ方向に進んでいくこと
- ③ 取り返しがつかない状況になること
- ④ 物事の問題点ばかり見ようとする事
- ⑤ 良い面もあるが一方でそれを続けていると悪い面もあるということ

問2 傍線部A「キユアからケアへ」という医療の役割の変容について筆者はどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

14。

- ① 筆者は、これまで医療は病気を発見、治療し、元の健康な状態に戻すという役割を担ってきたが、現代では予防医学の観点から病気ではなくても病気になるリスクが高い場合は率先して治療を行うようになってきたと指摘している。
- ② 筆者は、これまで医療は病気を発見、治療し、元の健康な状態に戻すという役割を担ってきたが、現代ではWHOの健康の定義にあるように精神的な健康に重点をおくため、治療よりも心のサポートを優先するようになってきたと指摘している。
- ③ 筆者は、これまで医療は病気を発見、治療し、元の健康な状態に戻すという役割を担ってきたが、現代では病気だけでなく健康に課題がある人も治療の対象になってきているため、往診を行うなど個人の生活に積極的に介入する必要があると指摘している。
- ④ 筆者は、これまで医療は病気を発見、治療し元の健康な状態に戻すという役割を担ってきたが、現代では予防医学の観点から生活習慣を見直すことで病気にかかりにくくすることに重点をおくことになってきたと指摘している。
- ⑤ 筆者は、これまで医療は病気を発見、治療し、元の健康な状態に戻すという役割を担ってきたが、現代では病気の治療だけを目的とするのではなく、個人の健康の質や生活の質を高めるような支援も行っていくことになってきたと指摘している。

問3 傍線部B「自立した一個人としての尊厳を回復することをめざす」とあるが、本文中におけるその意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

15。

- ① 現代の医療と福祉はたんに患者を健康な状態へ導き援助をするだけでなく、必要に応じて援助を受けながら自分の行動や発言に責任を持ち、どのような生活を送りたいかなど、当事者自身が自分の行動を選択して決定していくことを支援していく必要性があるということ。
- ② 現代の医療と福祉は、健康リスクを悪化させないために特に社会的弱者に対して予防医学の観点から向き合う必要があるため、事前に患者の生活習慣について調査し、病気にかかりやすいリスクを日常生活の中から改善していく努力をしていかなければならないということ。
- ③ 現代の医療と福祉は、健康リスクを抱え込みやすい社会的弱者への支援の一つとして、当事者の健康状態や疾病リスクを高めるような生活習慣を常に管理し、病気にかかる要素を一つ一つ除去していくという方法があるが、これは医療や福祉の責任であり、自立した一個人として尊重しているという考えが背景にあるということ。
- ④ 現代の医療と福祉では、病気を事前に予防する予防医学に基づいて疾病リスクを悪化させるような生活習慣を見直す必要があるとされるが、福祉の基本である援助の考え方に沿って、当事者の生活全般の改善に努め、その上で自立を促していくことが重要だということ。
- ⑤ 現代の医療と福祉では、予防医学の観点から病気にかかりにくくするための改善が必要とされるが、その一つとして当事者自身が自分の日々の生活に関心をもてるよう他者の手を全く借りずに自分の生活習慣を見直すことを目標にすることで、当事者の依存心と自立心のバランスを保つ工夫をしているということ。

問4 傍線部C「従来の生物学主義一辺倒の視点から、「生物―心理―社会」モデルへの移行」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。  
解答番号は 。

- ① これまでの医学が直面してきたのは「死亡か生存か」という観点であったが、これからは健康度を測る基準を細かくしていく必要があるため、その基準の一つとして心理的、社会的な要因も取り入れるようになってきたということ。
- ② 検査データなど医学的な指標を用いて病気の原因を突き止める手法から、個人が精神的に安定し社会生活にも満足しているかどうかという新しい尺度で健康かどうかを測るようになってきたということ。
- ③ 病気を治療して健康に戻すというこれまでの医学の考え方から、さらに精神的な面、また社会環境においても個人が健康な状態だと感じているかということを含めて考え、この全てを考慮することが新しい健康のとらえ方だということ。
- ④ これまで医学はさまざまな研究を行い病気の原因を解明することに力を注いできたが、これからは予防医学の観点から病気にかかりにくくする生活習慣の追求に努めていくようになってきたということ。
- ⑤ 現代は病気を発見、治療し健康な状態に戻すだけでなく、一人一人が自立した個人として生きていくことが求められる時代になってきたため、多方面に医療の幅を広げる必要があるということ。



問5 傍線部D『客観的健康』から『主観的健康』へ」とあるが、どのようなことを指しているか。

その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 健康かどうかの定義は人によってさまざまであるが、これまで多くの人は他者から見て病気ではない状態を健康ととらえていたが、それだけではなく自分自身が体調不良やストレスを感じたりすることがない状態も健康ととらえること。
- ② 健康観の変化とは、観察からわかる症状やさまざまな医学的データなどの指標に基づき判断されるものから、医学的な判断によらず自分自身が病気がそうでないかを判断するという新しい考え方へ移行したということ。
- ③ 健康かどうかを判断するには、これまで観察からわかる症状や検査データなど医学的な指標が用いられてきたが、人々の健康についての関心が身体面だけでなく精神的な健康にまで広がってきたため、個人の健康のとらえ方を優先するということ。
- ④ これまで健康かどうかは、観察や検査データなど医学的な指標に基づいて判断されてきたが、これらの指標で異常が認められなくても患者自身が感じる不調や苦痛があれば健康とはいえないなど、個人のとらえ方が健康に影響するということ。
- ⑤ 食生活の多様化などにより、これまでの医学的な検査などの指標だけでは個人の健康を判断することが難しくなったため、これに加えて個人が自分自身の健康に関して関心を持ち各々の判断で健康かどうかを決めるということ。

問6 傍線部E「主観重視の姿勢にも副作用はある」とあるが、どのような内容を指しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 医学的な指標では病気ではなくても患者の訴える苦痛に対して治療や支援を行なうべきであり、そのことは生活の質を高めることにもつながるが、患者の訴えを重視するあまり本来は病気ではないものまで治療の対象としてしまう恐れがあること。
- ② 医学的な指標では病気ではなくても患者の訴える苦痛に対して治療や支援を行なうべきであり、そのことは生活の質を高めることにもつながるが、それに伴い病名が増えることで分類が細分化しすぎてしまうということ。
- ③ 医学的な指標では病気ではなくても患者の訴える苦痛に対して治療や支援を行なうべきであり、そのことは生活の質を高めることにもつながるが、多少の苦痛でも不調を訴えるようになり我慢に対する耐性が弱まってしまわないかと懸念されること。
- ④ 医学的な指標では病気ではなくても患者の訴える苦痛に対して治療や支援を行なうべきであり、そのことは生活の質を高めることにもつながるが、患者の苦痛を重要視するあまり医者が患者の苦しみを自分のことのように感じてしまい治療に支障をきたすこと。
- ⑤ 医学的な指標では病気ではなくても患者の訴える苦痛に対して治療や支援を行なうべきであり、そのことは生活の質を高めることにもつながるが、患者の健康度を測る尺度が次第に多くなり健康の基準があいまいになってしまうこと。

※このページは空白

## 2. 英語

※英語の問題は、全6ページです。

# 英 語

1

次の会話（問1～5）の会話を完成させるために、（ ）に入れるのに最も適切なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A: What is today's homework?

B: I have to write an essay.

A: Have you finished?

B: No, not yet.

A: When do you have to submit it?

B: ( ).

1

① Tomorrow will come

③ It has been done last Monday

② It is due on Friday

④ I'll make it just before the deadline

問2 A: Do you want to watch this movie on TV?

B: Yes, I'd love to.

A: Here we go. Let's watch together.

B: Would you please make it a little bit louder?

( ).

B: OK.

2

① I can rarely hear it

③ I can barely hear it

② I can surely hear it

④ I can generally hear it

問3 A: How often do you eat out?

B: ( ).

A: Do you cook at home?

B: Not really.

3

① Every now and then

③ I eat as usual

② After finishing my work

④ One of these days

問4 A: He is always late for work.

B: Yes, he was late today again. He said his bus was delayed.

A: ( ).

B: He needs to reconsider his behavior.

A: I totally agree with you.

4

① I count on him

③ I admire him

② I am fed up with his excuses

④ I am proud of him

問5 A: ( )?

B: Yes, what is it?

A: I need someone to pick up my kids from the station.

But I can't start my car.

B: No, problem. I can give you a ride.

5

① Do you mind if I ask you something

③ Are there any questions

② May I help you

④ Would you do me a favor

2

次の問い（問1～10）の 6～15 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 She was so tired that she 6 down on the bed without taking her shoes off.

① laid

② lied

③ lay

④ lays

問2 All flights are running 7 schedule due to the storm.

① over

② to

③ in

④ behind

問3 He is very talented and gains trust of others. He is 8 .

① promised

② promising

③ to be promised

④ promise

問4 They seems to have a lot in 9 .

① common

② share

③ interests

④ favor

問5 My sister kept me  for a long time.

- ① to wait                      ② waited                      ③ waiting                      ④ wait

問6 Having  all money, she had to come home on foot.

- ① spend                      ② spending                      ③ spent                      ④ been spent

問7 It is surprising that he  not know it.

- ① would                      ② may                      ③ must                      ④ should

問8 I would  wait here than go out.

- ① rather                      ② like                      ③ mind                      ④ prefer

問9 We heard  news today.

- ① a couple of                      ② little                      ③ a few                      ④ several

問10 He lives in the house  walls are painted yellow.

- ① where                      ② which                      ③ whose                      ④ that

**3**

次の英文（問1～5）の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問1 If he ① has been busy ② on that day, he ③ would not ④ have come to see me.

問2 This wine is ① well known ② for ③ be ④ among the best in the world.

問3 I have ① no ② reason ③ in believe ④ what he says.

問4 My husband and I ① have travelled ② to Italy ③ at least ④ five time.

問5 It's just ① so well ② that you did not go out, because it was ③ terribly cold ④ out there.

**4**

次の問い（問1～5）において、日本文の意味に合うようにそれぞれ下の①～⑤の語句を並べ替えて空所をおぎない、最も適当な文を完成させよ。ただし、文頭に来るべき語も小文字で示してある。解答は ～ に入れるものの番号のみを答えよ。

問1 それは素晴らしい絵画なので売ろうと思ったことは一度もない。

It's ( ) (  ) ( ) (  ) ( ) I never want to sell it.

- ① picture      ② great      ③ that      ④ such      ⑤ a

問2 あなたの話から判断すると、彼女は正直者のようだ。

( ) (  ) ( ) (  ) ( ), she seems to be an honest person.

- ① from      ② you      ③ what      ④ judging      ⑤ say

問3 君が参加できない場合に限って私が行きましょう。

I will go ( ) (  ) ( ) (  ) ( ).

- ① only      ② can't      ③ you      ④ attend      ⑤ if

問4 私の自転車は兄によって今修理されている最中です。

( ) (  ) ( ) (  ) ( ) my brother.

- ① being      ② by      ③ my bicycle      ④ repaired      ⑤ is

問5 彼は彼女のことを全く知らないふりをした。

He pretended ( ) (  ) ( ) (  ) ( ).

- ① to      ② at all      ③ not      ④ know      ⑤ her

**5**

次の文章を読み、問い（問1～4）に答えよ。なお、\*のついた単語には注がつけてある。

\*Brain drain, which is the action of having highly skilled and educated people leaving their country to work abroad, has become one of the developing countries' ( a ). More and more science and technology educated people in developing countries are heading for more affluent countries seeking higher wages and better working conditions. This has of course serious consequences on the sending countries.

While many people believe that immigration is a personal choice that must be understood and respected, others look at the phenomenon from a different perspective.

A \_\_\_\_\_ makes those educated people leave their countries should be seriously considered and a distinction between push and pull factors must be made. The push factors include low wages and lack of satisfactory working and living conditions. \*Social unrest, political conflicts and wars



may also be determining causes. The pull factors, however, include \*intellectual freedom and substantial funds for research.

Brain drain has negative impact on the sending countries economic prospects and competitiveness. It reduces the number of dynamic and creative people who can contribute to the development of their country. Likewise, with more \*entrepreneurs taking their investments abroad, developing countries are missing an opportunity of wealth creation. This has also negative ( b ) on \*tax revenue and employment.

Most of the ( c ) taken so far have not had any success in easing the effects of brain drain. A more global view must take into consideration the provision of ( d ) working and living conditions in the sending countries. Another option should involve encouraging the \*expatriates to contribute their skill to the development of their countries without necessarily physically relocating.

Source: [https://www.myenglishpages.com/site\\_php\\_files/reading.php](https://www.myenglishpages.com/site_php_files/reading.php)

注) brain drain: 頭脳流出 social unrest: 社会不安 intellectual freedom: 知的自由  
entrepreneurs: 企業 tax revenue 税収 expatriates: 国外居住者

問1 文中の ( a ), ( b ), ( c ), ( d ) に入れるのに最も適当なものを、それぞれ①～④のうちから一つずつ選べ。

- |       |                 |              |    |
|-------|-----------------|--------------|----|
| ( a ) | ① concern       | ③ product    | 31 |
|       | ② collaboration | ④ policy     |    |
| ( b ) | ① decision      | ③ attitude   | 32 |
|       | ② consequence   | ④ thoughts   |    |
| ( c ) | ① people        | ③ situations | 33 |
|       | ② measures      | ④ results    |    |
| ( d ) | ① poor          | ③ adequate   | 34 |
|       | ② severe        | ④ unstable   |    |

問2 \_\_\_\_\_ A \_\_\_\_\_ の中に入る最も適切な関係詞を下の①～④のうちから一つ選べ。

35

- ① Which
- ② What
- ③ That
- ④ Why

問3 頭脳流出が起こる原因として**適当でない**ものを下の①～④のうちから一つ選べ。

36

- ① 低賃金
- ② 不安定な社会情勢
- ③ 税収の減少
- ④ 満足のいく仕事の欠如

問4 本文の内容に合致するものを次の①～⑧の中から三つ選び、番号で答えよ。ただし、解答の順序は問わない。

37 · 38 · 39

- ① 頭脳流出は近い将来起こりうると懸念されている。
- ② 頭脳流失とは発展途上国の高度な科学技術をもった人々や高学歴の人々が繁栄した国々に流出してしまう現象をさす。
- ③ 頭脳流出は流出先の国々に様々な悪影響を及ぼす。
- ④ 頭脳流出は先進国の移民対策の一つである。
- ⑤ 頭脳流出を増加させる要因のひとつに流出先の国における豊かな研究資金が挙げられる。
- ⑥ 生活状況は頭脳流出には関係しない。
- ⑦ 企業は外地に拠点を置くべきである。
- ⑧ 頭脳流出の要因の1つに社会不安があげられる。